

二〇一九年三月二二日

咲き満ちて一花も零さず雪柳  
四つ辻を曲がるや否や丁字の香  
春の靄生駒の嶺々の襷を縫ふ  
梅が香を運ぶ山雨のあとの風  
大仰に風いなしをる雪柳  
植えた場所忘れた頃に黄水仙  
燕らの戻り華やぐ無人駅  
トンネルを抜けて故郷の山笑ふ

二〇一九年三月二二日

好物のぼたもち供ふお中日  
吉報を運び来る如燕来る  
見晴るかす沖の白波春疾風  
春愁といふてはをれぬ介護かな

二〇一九年三月二〇日

春雪や火の坩堝なる登り窯  
真つ直ぐに飛ばぬ土器山笑ふ  
安産の祈願絵馬守る濃紅梅  
鶯の高音背を押す登り坂

二〇一九年三月一九日

古都ゆかしインクラインの青き踏む  
春光の綺羅撒き散らす太湖かな  
一雨に枝垂れ芽柳うすみどり

二〇一九年三月一八日

答えぬは個人保護法春寒し  
文字太くダイヤ改正駅の春  
ミモザ咲くホスピス棟は海側に  
待望の女児誕生に山笑ふ  
ランドセル見え隠れする花菜畑

二〇一九年三月一七日

大剪定されし大樹に空広し  
春風に髪なびかせて少女駆く  
悔りてコンビニまでの春寒し  
児童等に席譲られて春の旅

二〇一九年三月一六日

回覧板渡せば匂ふ沈丁花  
しゃぼん玉飽きずに吹く子姉になる  
大文字火床の山の青き踏む  
畦に置くラジオ聞きつつ畑打ちす  
春雷に手のとまりたる厨事  
軒下に吊るす菅笠燕来る  
春雷の喝に目覚めし朝かな

よう子

明日香

よし女

さつき

こすもす

三刀

やよい

たかを

こすもす

なつき

せいじ

せいじ

隆松

菜々

海潮音

よう子

たか子

満天

せいじ

隆松

菜々

毎日句会みのる選・二〇一九年三月二四日